

「カタクリ見頃」の文句に誘われて京都・ポンポン山(679m)へ

雑誌「山と溪谷」3月号は「春、花の低山へ」と題する特集を組んだ。

ここで紹介された「ポンポン山のカタクリ」に会いたくなって日帰りで行ってみた。

4月10日、自宅を早朝に発ち、電車を使い、7時半過ぎ阪急電鉄京都線東向日(ひがしむこう)駅着。

ドライバーは山好き・話好き

登山口に向かうタクシーの運転手さんは山好き・話好きの中年女性。大和葛城山、二上山をはじめ奈良の山にもいくつも登ったという。「恰好の話し相手」と見たのか、目的地に着くまで、途切れなく話は続いた。

私にとっては未知の山であるポンポン山の登山道やカタクリについての情報は有難かった。

いきなり「熊出没」の看板

善峰寺(よしみねでら)登山口には「熊出没注意」の看板。この看板は山中でも見受けられた。

熊ベルをリュックの背中にぶらさげて8時登山開始。

簡素な板の橋で善峰川を渡って、対岸の針葉樹林の斜面を斜めに横切って登っていく。

静かな登山道、熊ベルの音色も遠慮がち

8:20 最初の分岐に着く。広場になっており、植栽されたと思われる数本の桜が満開。休憩後、再び人工林の中を進む。

樹木は枝打ちなど手入れがされており、見通しは良いが、下草もなく、アオキ、アシビなどの灌木が点在するが花

はなく、散見されるヤブツバキの花が赤い点として目立っているのみ。

小鳥の鳴き声も聞こえず、静かな登山道に「リン、リーン」という熊ベルの音色だけが響いているが、それも思いのほか遠慮がちだ。

尾根の道では花が続く

間もなく稜線を歩くようになる。雑木林の中の道となり、途端に花が目につくようになる。ヤブツバキ、アシビが満開、ミヤマシキミも開花寸前。遠くの斜面にはタムシバが白い花をたくさん着けて新緑の中で浮き出ている。

9:55 釈迦岳着。登山道横の小さなピークだが、三角点の石標があり、山名板に「島本町で一番高い山」と書かれている。標高631m。ここは大阪府なのだ。

心地よいプロムナード

ここからは歩きやすい尾根道。ほぼ平坦なプロムナード(散歩道)だ。足元に各種スミレ。林縁ではミヤマシキミのつぼみが先端を赤く染めて半球形に密集し、シキミの花が黄白色の尖った花びらを広げて光沢のある濃緑の葉の中に納まっている。

小鳥たちの飛び交う姿も目に入り、ホオジロ、メジロ、シジュウガラさえも賑やか、ヒヨドリの啼き声がけたたましく響いてくる。

厳重なフェンスに囲われたカタクリの自生地

お目当てのカタクリ自生地は登山道の傍らにあった。広い山の斜面を金網で囲み、厳重な出入りが設けられている。

カタクリを観る楽しみは、昼食後に取っておくとして、ポンポン山山頂に向かうこととした。



↑ 陽光を浴びて開花したカタクリ



↑ 壺状の花を満載したアシビ





分岐を見落としした自分に愕然

花を楽しみながら歩いていてポンポン山への分岐を見落とし、道が下りぎみになって気づいて引き返した。

引き返してみると、「なぜこんな明瞭な分岐を見落とししたのだろう」と自らの不注意に愕然となる。

京都市街が一望できるポンポン山

11:15 ポンポン山到着。6 7 9 m。眼下に京都市街が広がり、山頂広場では幾組かの登山者たちが、いずれも日陰によって、三々五々お弁当を広げている。

アカタテハが日向ぼっこ

陽光の中、アカタテハが舞っては降り、飛び立っては降りして、広場から離れない。おそらく落ち葉の下か、木の洞かで越冬してたのが、陽春に誘われて姿を現したのだろう。

それにしても越冬個体にありがちな翅(はね)の



↑シキミ(シキビ)

↓アカタテハ



損傷も少なく、赤地に黒斑の全身をいっばいに広げて、自らの存在をアピールしている。厳しかった今年の三寒四温で不足がちだった日光浴を取り戻すかのよう。

花守りの人たちに守られて咲くカタクリ

昼食後、フェンスで囲われたカタクリ群生地に戻り、懸命に咲く花を写真に収める。晴天の午後なので、花は花弁を反り返らして、背伸びするかのようには咲いている。

まだつぼみが多く、3 分咲きというところか。数人の高齢男性が用具を手に、エリア内を巡回している。カタクリの守りびとたちだろう。期待していたギフチョウには逢えなかった。カタクリのためにも残念。

人々に感謝し、花に別れを告げて

花を守る人々に感謝し、可憐な花々に別れを告げ、往路をたどって下り 13:45 善峰寺バス停に下り立ち、14:05 発バスに間に合って、JR 向日駅に向かった。

本名は加茂勢(かもせ)山

登山用地図にも、案内書にも「ポンポン山」の名で載っている。頂上で足踏みするとポンポンと音がするというので「ポンポン山」らしいが、正しくは加茂勢山と言うそうだ。

山名の由来や言い伝えについては勉強不足でわからない。どなたでも教えていただければ有難いです。



↑シハイスミレ

続・続・二上山に咲く花々 5 2

ヤドリギ(寄生木、宿り木)

ビャクダン科(従来はヤドリギ科)ヤドリギ属

写真は故澤木仁さん

落葉樹の枝に寄生(自らも光合成をするので半寄生)し、枝上に直径 30~100 cm もの球状塊を作る常緑樹。

奈良県では吉野山のサクラへの寄生が有名です。また大和葛城山ロープウェイ山上駅周辺のブナ、大和高田市大中公園のエノキでも観察できます。

二上山では大阪側・万葉の森から馬の背へと登る舗装路が、鹿谷寺(ろくたんじ)跡からの道と合する三差路のサクラ枝上に見られます。

地上では繁殖せず、木から木へ、枝から枝へと移って、繁殖域を広げます。

ヤドリギの実が熟す秋、日本にくる冬鳥のキレンジャクやヒレンジャクがこの実を好んで食べますが、粘液に包まれた実が、ジュズのように鳥のお尻からぶら下がり、鳥の移動につれて、他の木、枝にくっつき、そこで新たな寄生を始めるのです。不思議な生態ですね。

